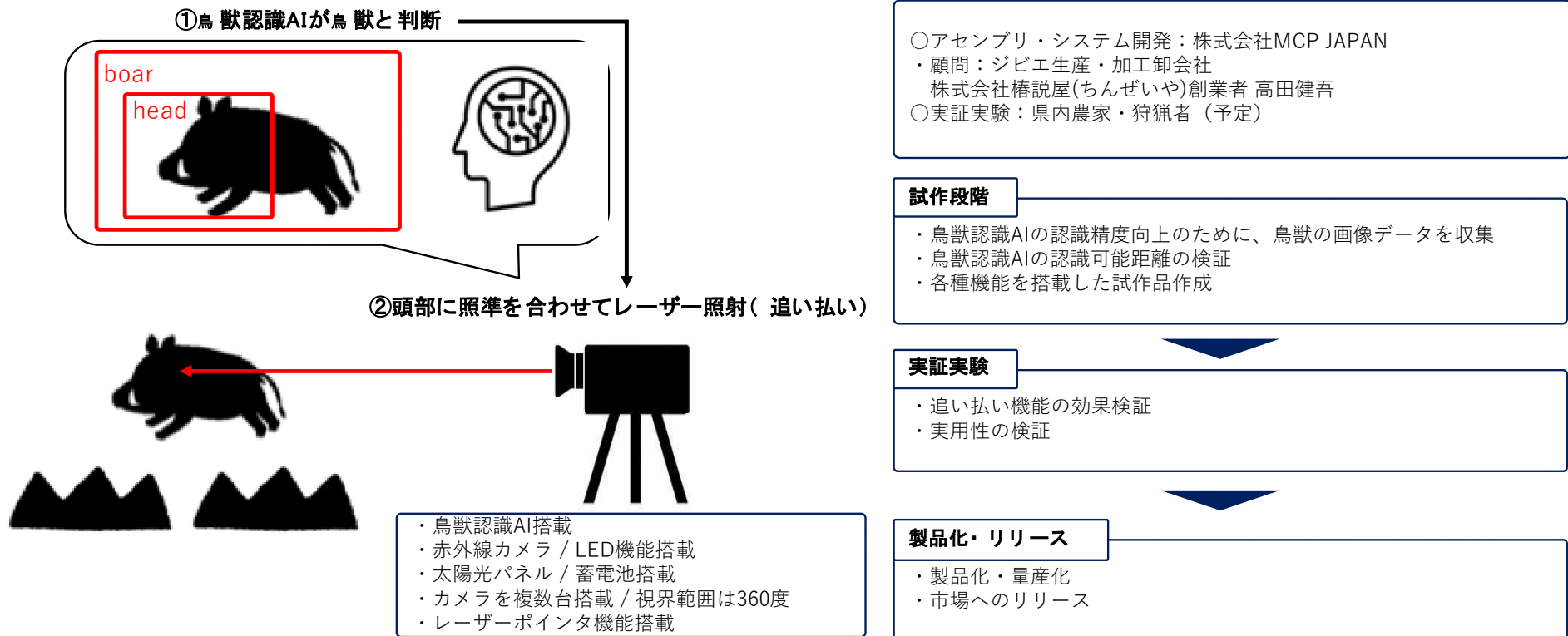


【課題】 イノシシやシカといった野生鳥獣被害による県内農林産物の被害額は年間2億円近くにも及ぶ。県内狩猟者・事業者の取り組みによって年々減少傾向となっているが、現状、ICT・IoT技術を活用した防護方法は数多く考案される中で、継続的に一定以上の防護効果が保証された方法は確立されていない。そして、今後猟師の高齢化にともない、防護・捕獲対策が弱る可能性がある。

【解決手法】 イノシシやシカといった鳥獣を認識する認識AIを搭載した赤外線カメラを複数台用意して、防護する田畑全域をカメラによって撮影する。イノシシやシカがカメラの撮影範囲で侵入した場合、鳥獣認識AIによってイノシシやシカかどうか判別を行い、イノシシまたはシカだった場合、鳥獣の頭部に照準を自動的に合わせ、レーザーポインタを作動させて鳥獣を追い払う。

【構想図】



事業実施主体
(コンソーシアム構成員)

株式会社MCP JAPAN (別府市) + 株式会社ASO (別府市)